

the Report:

LAS VEGAS-Vol.1

2017.5.20 -22

By Maiko Tanaka and Tomomi Narita

1. The Cromwell
2. SLS Las Vegas
3. Wynn Las Vegas
4. Las Vegas Future Project
5. RECON 2017



Maiko Tanaka
田中 麻衣子

東京外国語大学卒業。
パリ政治学院にて国際関係を学ぶ。
その後通訳、コーディネーター職を経て、町田ひろ子アカデミーに入学。インテリアスタイリスト科を修了後マンション、モデルルーム、ホスピタリティ、飲食店のインテリアを手掛け、2016年に内装設計会社に入社。現在ヨーロッパブランドのローカルアーキテクトとして活躍する。



Tomomi Narita
成田 朝美

ニューヨークのParsons school of designの建築課を卒業。その後8年間Gabellini Sheppard Associates LLCのデザイナーとして勤務。主に店舗やホテルのデザインコンセプトから施工監修まで携わる。日本へ帰国後2015年に内装設計会社に入社。インポートブランドを中心にローカルアーキテクトとして活躍する。

the Report:

LAS VEGAS

2017.5.20 -22

By Maiko Tanaka and Tomomi Narita



The City of “Opulence”

ラスベガスといえば、派手なネオンサインやベネチアン、シーザーズパレスのようなテーマパーク的巨大ホテルのイメージが強い。

しかしリーマンショック以降は、スケールダウンしつつも質の高い「ブティックホテル」がメガホテル敷地内に建てられるようになった。マンダレイ・ベイのデラーノ、シーザーズのノブホテルなどがそうだ。

もはやネオンサインで客を引き付けることは難しく、道を歩く観光客「ピデストリアン」を館内の「パッセージ」に誘導する仕掛け＝館内施設のグレードアップが重要になってきた。カジノは小さくなり、憩いスペース、上質のカフェ、バー、ショップが連なる。

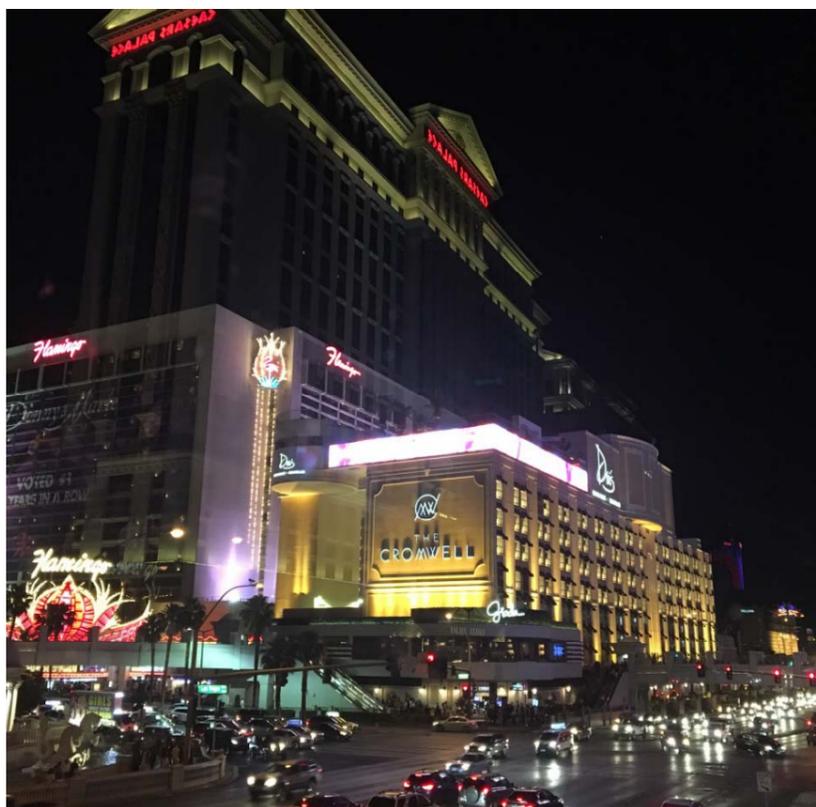
スタイリッシュでグレードの高いブティックホテル化も同一線上にある傾向だ。

ラスベガスはスクラップ&ビルドを脱皮のように繰り返し進化してきた。1969前に建てられたホテルは今やトロピカーナ、フラミンゴ、シーザーズパレス、サーカス・サーカスを残すのみ。古き良きラスベガスを懐かしむ声も聞かれる中、メインストリート沿いの一番新しいブティックホテルホテル、クロムウェルやSLSが新築ではなく改装というのも興味深い。

とはいえ、昔から変わらないのはラスベガスが“City of Opulence(豪華/豊富)”ということだ。カジノ、ショッピング、エンターテイメント、飲食等全ての分野で最高級/話題性を極め、それが満腹なまでに提供される。最近よく聞く‘Mixed-use’の究極系ともいえる街だ。

THE CROMWELL

Open in 2014



ザ・クロムウェル
ラスベガス初のスタンドアローン・ブティックホテル

2014年5月にオープンしたラスベガスで一番新しいブティックホテル。

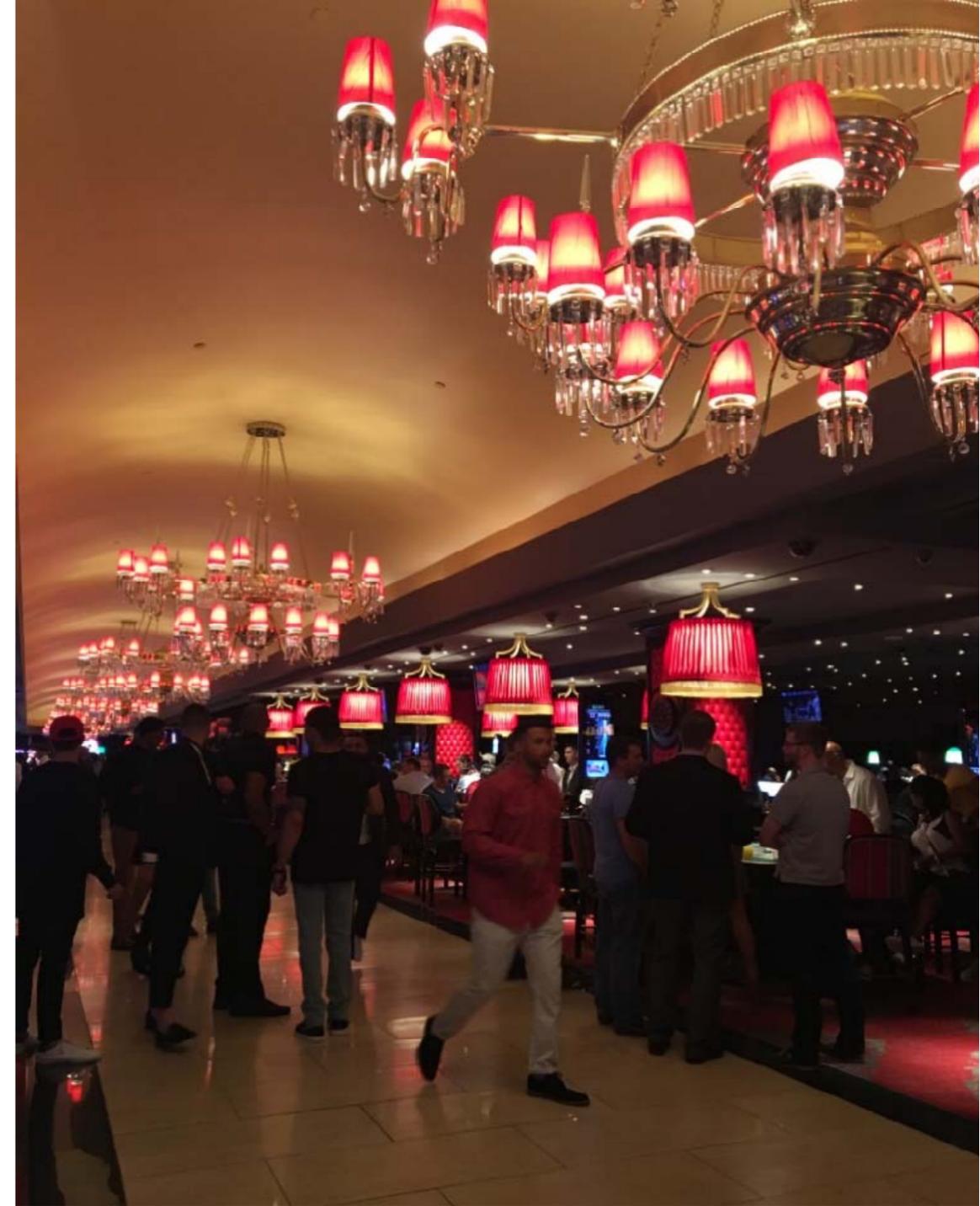
客室数は188と小ぶりながらラスベガス・ストリップ（メインストリート）でも一番にぎわいのある交差点を臨む一等地にある。

1979年に建てられたカジノホテルを1.85億ドルかけてパリ風に改装。パリのオテル・コストがモデルにされている。インテリアは赤をアクセントカラーにした艶っぽい「ヴィンテージ&モダン」。



改装前の「ビルズ・ギャンブリング&サルーン」
古き良き vegas のネオンサイン。

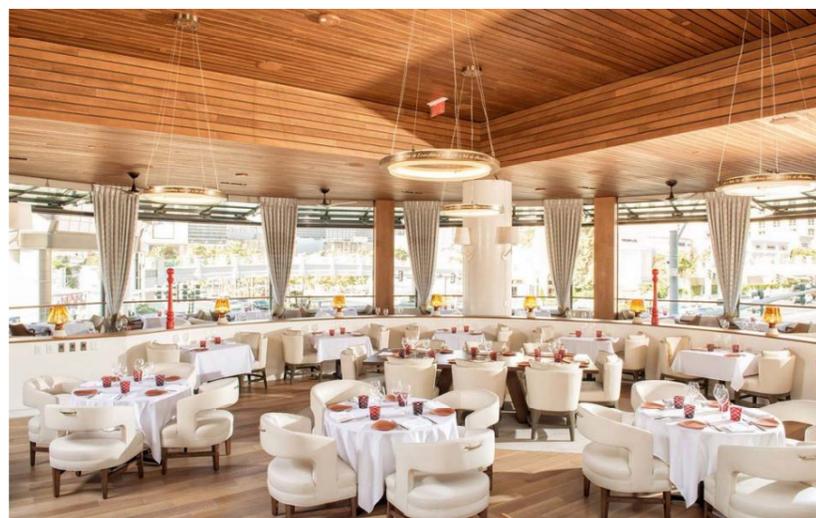
イメージ： <http://www.lebasketbawl.com/wp-content/uploads/2011/02/bills-las-vegas.jpg>



イメージ： http://www.djoybeat.com/wp-content/uploads/2014/02/drais_featured.jpg

Drai's Beach Club

「ナイトクラブのゴッドファーザー」ことヴィクター・ドライが構想15年といえを実現させた夢のナイトクラブ。ストリップを一望するルーフトップにある大人気スポット。



イメージ： <https://www.caesars.com/cromwell/restaurants/giada>

GIADA

エミー賞受賞料理番組を持つセレブシェフ、ジャーダ・デ・ラウレンティス初のレストラン。イタリアン・カリフォルニアのフュージョン料理。ベラッジオの噴水が一望できる。

ホテルとは違う明るい色調のナチュラルモダンな店内。

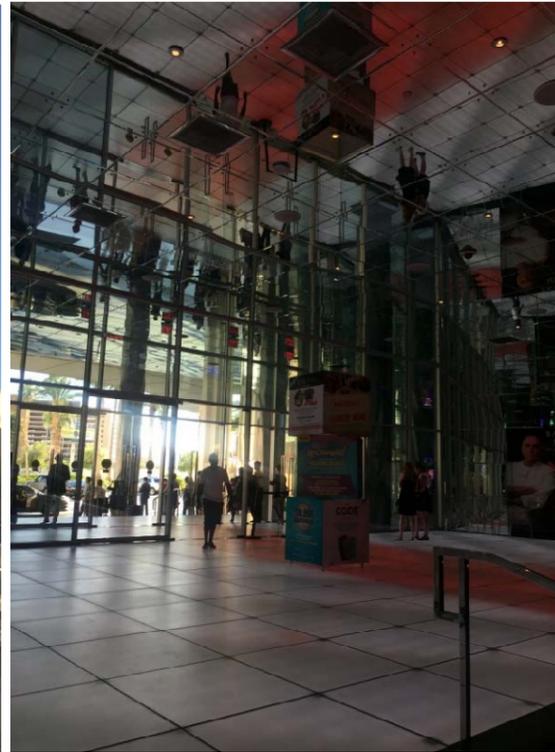


SLS Las Vegas

Open in 2014



落書きの様なオブジェはSLSのオーナー、サム・ナザリアンのカリカチュア。



鏡天井のモダンなエントランス。

スタルク初のラスベガスリゾート

2014年8月オープン。2つのホテル棟・総客室数1600。

お惜しまれつつ閉店した1952年創業サハラをSBEが4.15億ドルかけて改装。ラグジュアリーホテル、SLSとなった。

ちなみにSLSはStyle, Luxury and Serviceの頭文字。

SLSシリーズのパートナーであるスタルクがゲンスラーとのコラボでレストランと客室をデザイン。エッジでスタイリッシュな空間の中に仕掛けや遊び心がちりばめられている。

スイート数室はレニー・クラヴィッツ（ミュージシャン/俳優）がプロデュースした。

敷地内ホテル1棟は改装され2016年9月、Wホテルにリブランディングされた。



前身のサハラ。映画の舞台にもなった。

イメージ：
<https://lasvegaskweekly.com/news/2011/may/12/sayin-g-goodbye-once-great-sahara/>



エントランス前にあるカジノ。ディテールまでデザインされているがこの時は盛況ではなかった。



リピートされるSLSのサルモチーフ。下はイラストレーター、スティーブン・ノーブルによる。ロゴにも使われている。



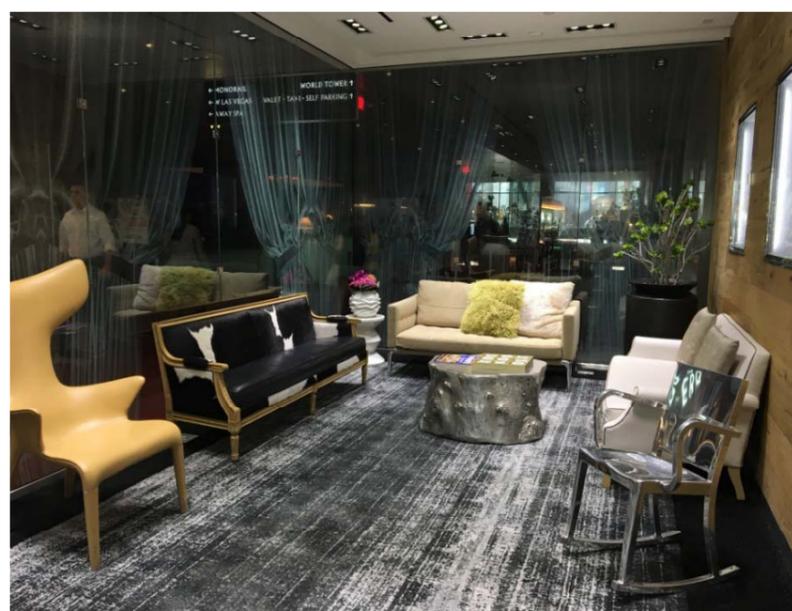
Etc.



左 KATSUYA アメリカで有名な上地勝也シェフの日本料理店。

右 CLEO グルメサイトでも高評価の人気創作地中海料理。店名は「クレオパトラ」に由来。勾配天井に中央の円筒型オープンが印象的だ。

上 Etc. デザイン性の高いオリジナル商品が並ぶ土産店。



会員ラウンジ内のスタルク家具。

Restrants, Shops... in SLS Las Vegas

地上階の中心にあるカジノの周りにレストラン、ショップがあり、店内が見渡せるオープンエントランス&オープンキッチンになっている。

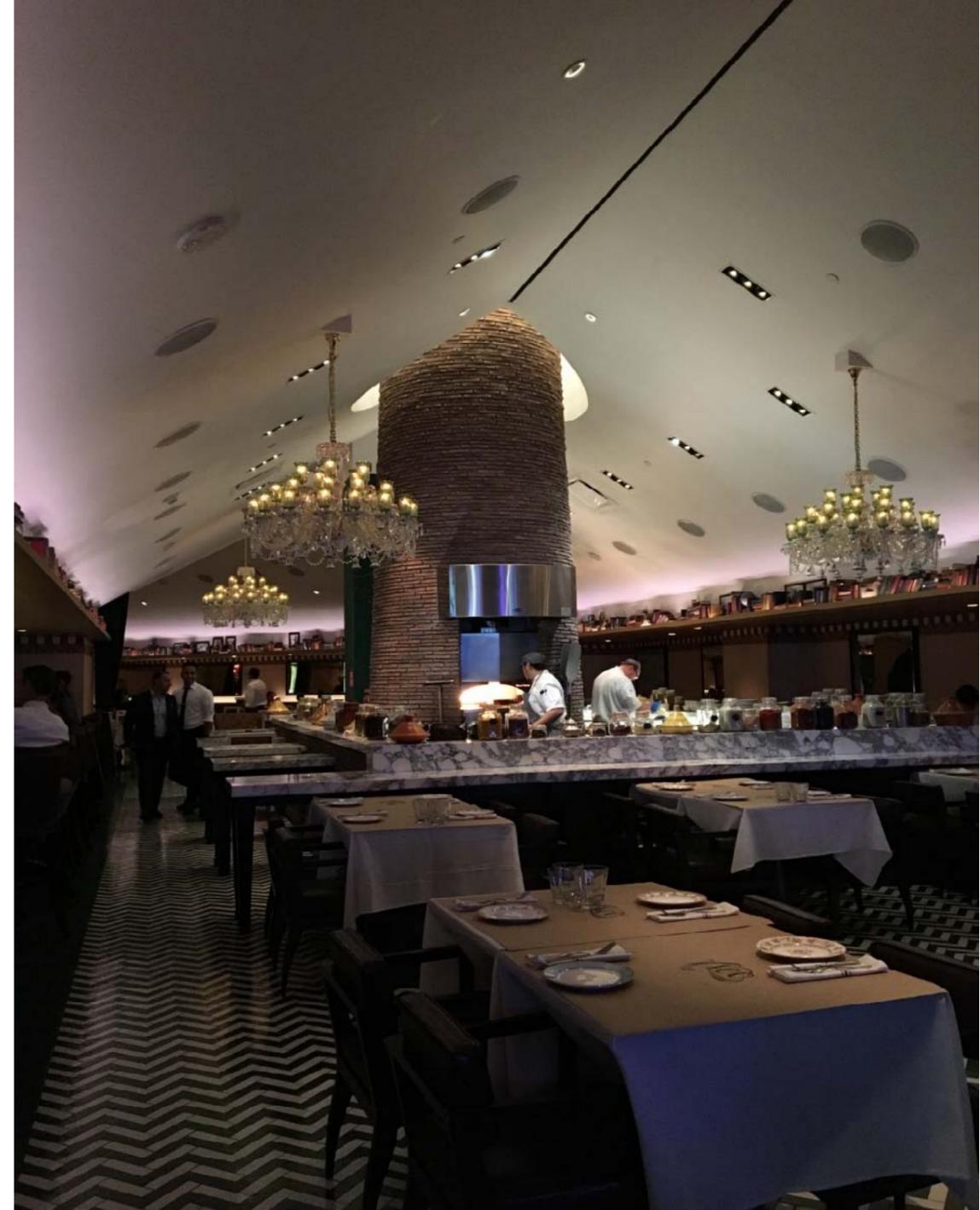
日本食、地中海料理等と其々のコンセプトにあわせデザインを変えているが、落ち着いた色調に統一され全体的な空間のまとまりが美しい。

高級ブティックホテルであるSLSブランドのターゲットはテイストのある大人の富裕層。やはり子供連れの家族は見かけなかった。

モノレールの北の終点にあるが、SLSやウィンリゾートの出現でストリップの北の注目度が上がっている。



プール。左端はスタルクデザインのアヒルのオブジェ。



通路に面したバーは人気。



謎のショップ。

Wynn Las Vegas

Open in 2005

世界屈指の最高級リゾート

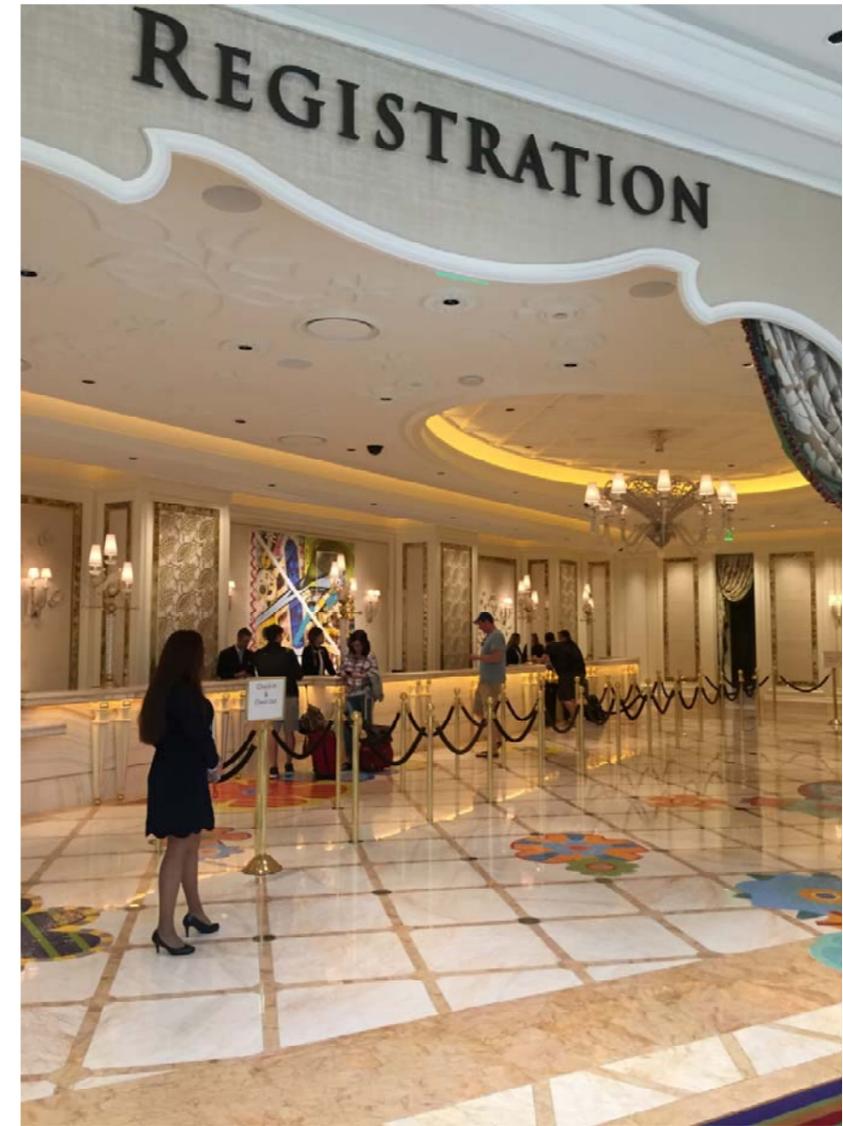
2005年4月にオープンしたウインは超大型高級リゾートでは一番新しい。ダイナミックな空間にオーセンティックなディテールへのこだわりを感じ、今回の訪問でひととき印象に残った施設。それもそのはず、今日のベガスの立役者、スティーブ・ウインの夢の集大成といえるホテルなのだ。2008年12月に同じ敷地にオープンしたアンコールと合わせて50億ドルが費やされた。

26.3万坪広大な敷地の中にウインとアンコール2棟のホテル、カジノ、ショッピングモール、コンベンションセンター、ゴルフコースまである。ウインとアンコールの合計客室数は4,750室。世界で7番目の大きさだ。

AAAやフォーブスの格付けで最上級にランク付けされ世界最高のホテルの一つとされる。

スティーブ・ウインはミラージュ（火山ショーで有名）、ベラジオ（噴水ショーは今やランドマーク）を生み出し常に新しい潮流を作ってきた人物。テーマパーク化していたカジノホテルを家族受けするショー、大人受けするバーやプールなど、幅広い世代が楽しめるようにし、「ベガスはギャンブルだけではない」というトレンドを作った。

2017年秋には2階建7,015㎡のショッピングセンター、「ウインプラザ」がオープン予定。



上 アトリウムには自然光がふんだんに差し込み、本物の樹木やエキゾチックな植物が贅沢に植え込まれている。

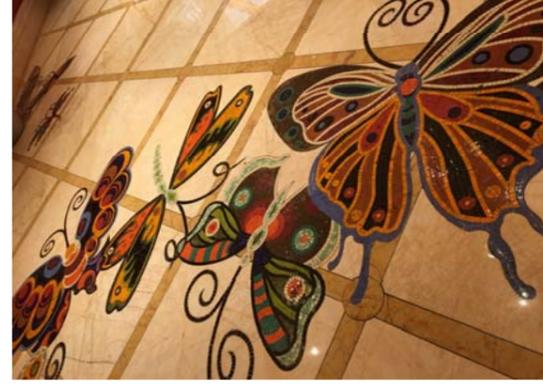
左 ラスベガスとは思えない緑豊かなゴルフ場はウイン自らがサウスカロライナやジョージア州をイメージしてデザインした。メインストリート沿いのリゾートホテルで敷地内にゴルフ場を持つのはウインだけだ。

右 パッセージを隔てて左がカジノ、反対側にはショップやカフェが立ち並ぶ。館内を迷い歩くだけでも楽しい。

右端 館内から見えるレストランのオープンテラス。池の向こうには滝や木々。思わず目が行く空間。

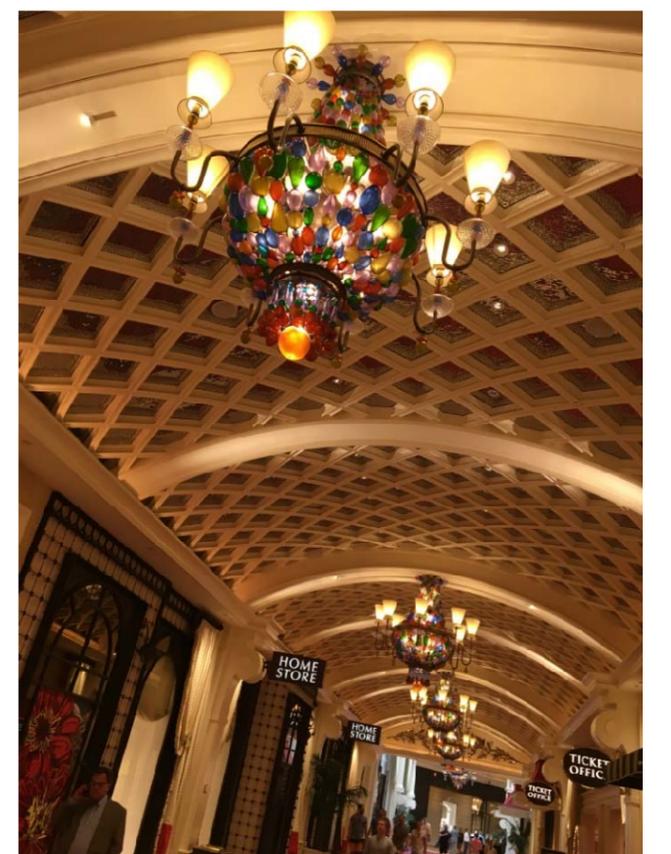
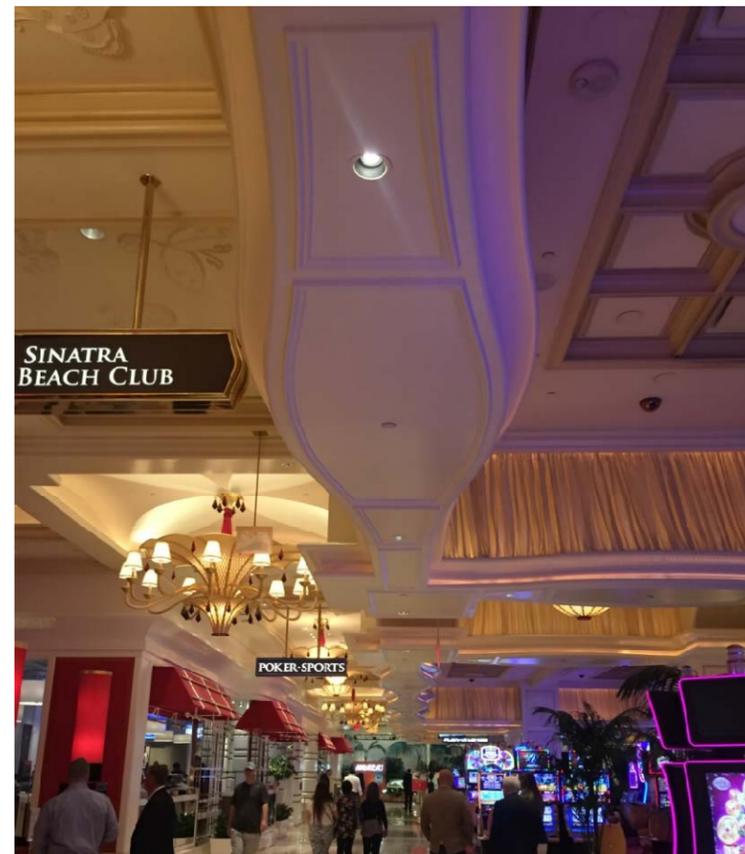


“Details” at Wynn Las Vegas



Les Details du “rêve”

ウインの建築プロジェクト名は「ル・レーブ」（フランス語で「夢」）だった。ここでシルク・ド・ソレイユが上演するのもル・レーブ。ひとときの夢を連想させる蝶のモチーフが館内とこころどころにあしらわれている。また、アジアなモチーフもリピートされている。アートコレクターで知られるウインらしく、随所にアートディスプレイがあり、エリアで表情を変える天井・照明デザイン、ファブリックは見ていて飽きない。



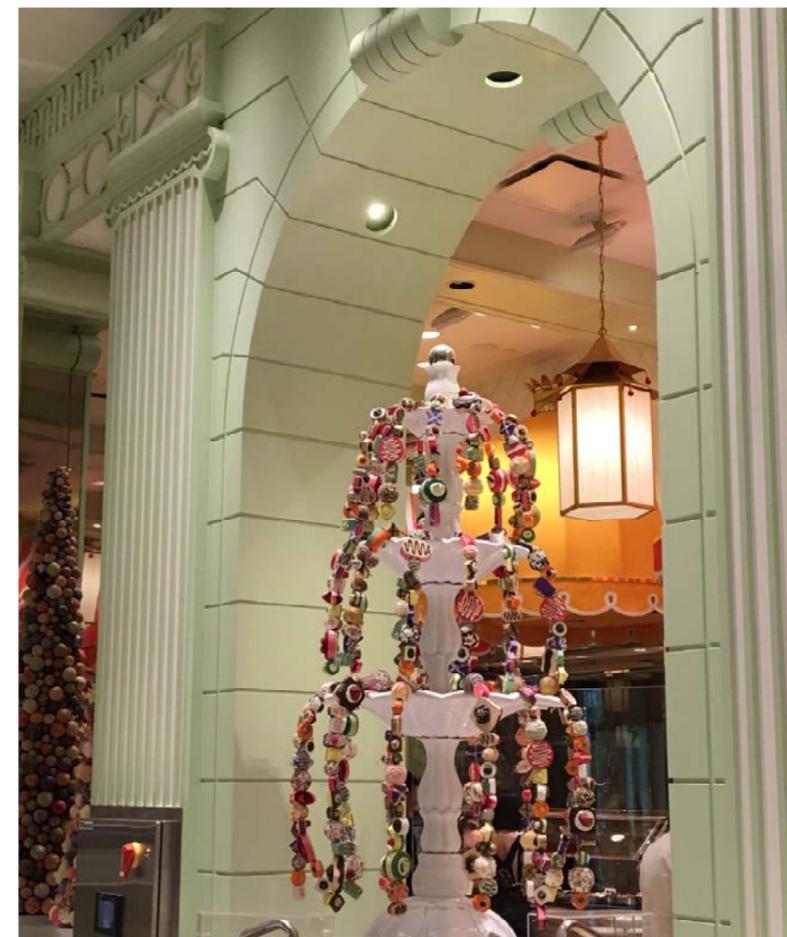
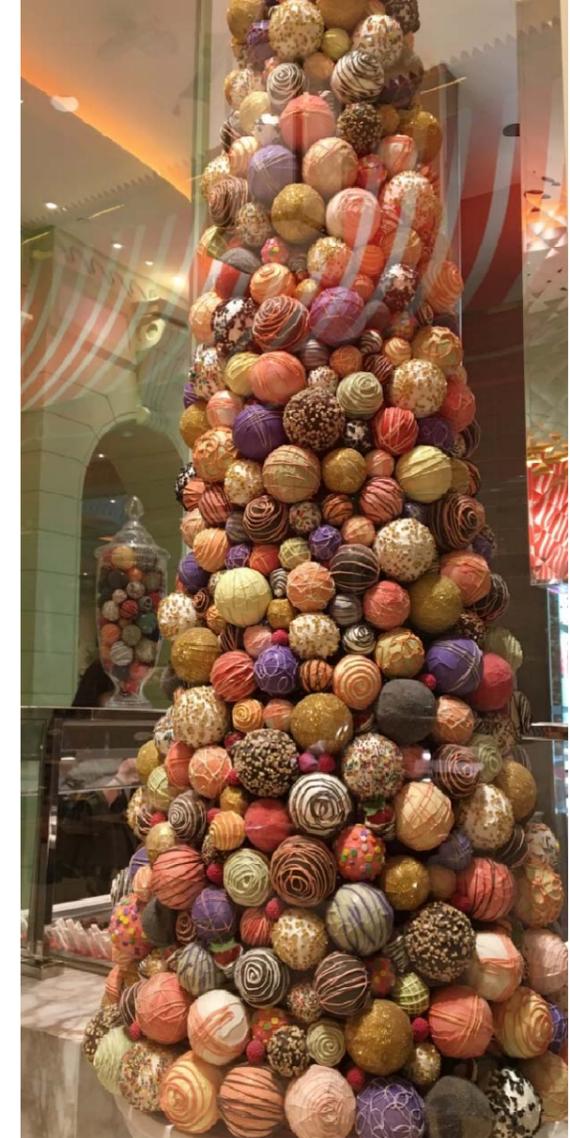
“The Buffet” in Las Vegas

ザ・バフェ

ラスベガスといえば「バフェ」。色々なカジノホテルで朝、昼、晩と贅沢なラインナップのビュッフェを提供している。

取材したウインのバフェはソフィア・コッポラ監督の「王妃マリー・アントワネット」を現代風にしたようなオピュラントなインテリア。入口から見えるアトリウムのデコレーションが華やかで目を引く。料理を取りに行くときまず、デザートカウンターを通る。色とりどりのペストリーやジェラードがデザインの一部ようだ。

料理カウンターの越しがキッチンになっており、その場で調理の様子が見れる。カキやカニのシーフード、寿司、ロースト料理、イタリアン、アジア等、何を食べようか・・・贅沢な悩みだ。



Las Vegas Future Project



Resort World Las Vegas

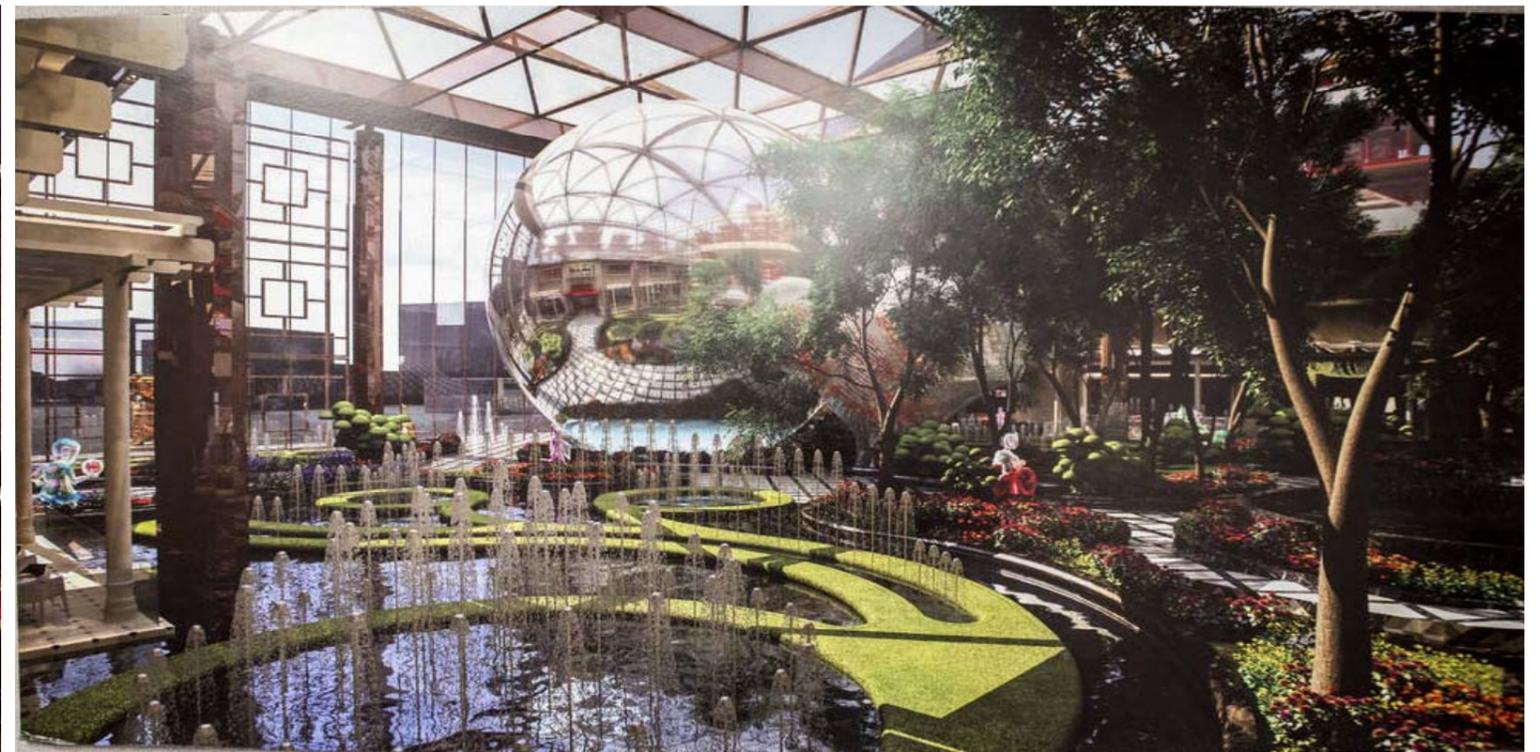
Open in 2020

前述のトレンドとは2世代逆行するようなプロジェクトだが、マレーシアのカジノも運営する複合企業ジェンティング・グループによる最新メガリゾートが2020年オープン予定。

初の中国をテーマにした総床面積61万坪の総合エンターテインメントリゾートとなる。

なんとパンダも来る予定だ！

- ・ホテル3棟 総客室数3,500室
- ・カジノ(9,290㎡)
- ・シアター(4,000席)
- ・会議場、ショッピング、レストラン
- ・ルーフガーデン
- ・水族館
- ・映画館
- ・アイススケートリンク
- ・ボーリング場
- ・インドアプール



the Report:

RECON 2017

2017.5.21 -24



THE GLOBAL RETAIL REAL ESTATE CONVENTION
世界最大のリテール不動産業界コンベンション

REConは毎年5月ラスベガスで開催される世界最大のリテール不動産業界コンベンション。

2017年は5/21(日)~5/24(水)に行われた。より有利な出店ロケーションを求めて、またネットワークを拡大のため、リテイラー、ショッピングセンター、外食産業など様々な分野からの来場がある。会期中はコンベンションセンターで企業が出展するほか、リゾートホテルでセミナー、アワードセレモニー、ガラ・ディナーやパーティーが催される。

リテール不振で店舗のクローズが相次ぐ中、毎年参加する企業もブースや参加人数をスケールダウンしたり、今年の参加自体を中止する企業もあるとの報道もあったが、1200社が出展、37,000人の参加者（登録数）はリーマンショック後最高を記録した。REConは業界トレンドを肌で感じる絶好の機会でもあるから、今後の状況を推しはかるために来る参加者も多いのではないと思う。



RECon開催後は状況を楽観視する記事も見られた。リテールが多くクローズしているのは事実だが、逆に飲食業界、エンターテインメント、フィットネス、ヘルスコンセプト関連は伸びており、よい出店ロケーションを探している。不動産業/デベロパーとしては業界の再編成を敏感に感じ、フレキシブルに対応することが重要と考えている。

MIXED-USE

“Mixed-use”という言葉がとびかっている。すたれたショッピングセンター等の再興に掲げられるキーワードで、単なる飲食・エンターテインメント・買物など複合施設ではなく、家族や友人と楽しめるソーシャル&ライフスタイルセンターにしよう、というものだ。そのためにはコンセプト、空間の魅力、テナントの厳選、キュレーションなど気持ちが上がるような仕掛けがなければ人は集わない。Real Estate（不動産）への脅威はVirtual Stores：つまりオンラインストアの発展。仮想では得られない実体験ができることが集客に重要になる時代だ。



ウィンのクールなプールサイドバーでオープニングパーティー。気軽に会話しながら名刺交換し、ネットワーク拡大に努める。

Recon 2017 Participants



日本からの参加企業。何の会社だろうか、と興味を引くブース。



長谷工は企業名を前面に出さず、日本人スタッフも見かけないため一件現地企業かと思



竹中工務店のブース。

出展社ブース@コンベンションセンター

コンベンションセンターは会期より一日後にオープンしたため、1日目はセミナーやレセプションなどのイベントのみ。会場は未完成だったが、2日目には完成し参加者が続々と来場した。



ゲンスラーはコラボ企業とジョイントでブースを展開していた。



上 世界規模の超大手、クシュマン&ウェイクフィールド。メインホールの中央の大きなブースに人があふれ、スタッフは対応に追われてた。

下 C&Wの隣も超大手GGP。ラスベガスではショッピングセンター「Fashion Show」を所有している。

右 落水に文字を映し出す装置メーカーのブース。



LED電飾、ディスプレイ、サイネージ等業者の出展も多い。

